

- 問1 大阪府堺市に位置し、三重の堀に囲まれた巨大な鍵穴のような形状を持つ、日本最大級の面積を誇る古墳の名称として正しいものを選びなさい。
。（2018年 長崎県公立入試 類似）
1. 稲荷山古墳 2. 江田船山古墳 3. 大仙（大仙陵）古墳 4. 高松塚古墳
- 問2 古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。
。（2023年 岡山県公立入試 類似）
1. 防人 2. 渡来人 3. 南蛮人 4. 遣唐使
- 問3 5世紀後半のものとされる埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や、熊本県江田船山古墳出土の鉄刀には、「ワカタケル大王」という名が刻まれています。この事実から推測される当時のヤマト政権の様子について、最も適切な説明はどれですか。
。（2026年 和歌山県公立入試 類似）
1. 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。 2. 各地の豪族が大王の許可なく、独自に大陸と外交を行っていた。 3. 大王の地位は固定されておらず、各地の豪族が交代でその任に就いていた。 4. 大王は奈良盆地周辺のみを治める、限定的な勢力に留まっていた。
- 問4 古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。
。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
1. 縄文土器 2. 弥生土器 3. 須恵器 4. 土師器
- 問5 4世紀から7世紀頃、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝えた人々を何と呼ぶか。
。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 渡来人 2. 遣隋使 3. 御家人 4. 防人
- 問6 日本最大の前方後円墳である大仙古墳など、古墳時代の遺跡や出土品に関する説明として誤っているものを、次のうちから1つ選びなさい。
。（2026年 徳島県公立入試 類似）
1. 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。 2. 大仙古墳のように円形と方形を組み合わせた形状の古墳が造られた。 3. 古墳の周囲や墳丘には、素焼きの土器である埴輪が並べられた。 4. 豪族の権威を示すための副葬品として、銅鏡や鉄剣などが納められた。
- 問7 古墳時代、朝鮮半島から日本列島に移り住んだ人々によって、新たな土器の製作技術が伝えられました。専用の窯（かま）を用いて高温で焼成されることで、それまでの土器に比べて非常に硬く、色が灰色をしていることが特徴の土器を何と呼びますか。
。（2018年 長崎県公立入試 類似）
1. 土師器 2. 須恵器 3. 弥生土器 4. 縄文土器
- 問8 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。
。（2020年 三重県公立入試 類似）
1. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。 2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。 3. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。 4. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
- 問9 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。
。（2021年 大阪府公立入試 類似）
1. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。 2. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。 3. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。 4. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。
- 問10 6世紀の古墳時代に、朝鮮半島の百濟から日本へ仏教が公式に伝えられた際、経典や仏像とともに日本へ同時にもたらされたものとして最も適切なものはどれですか。
。（2024年 群馬県公立入試 類似）
1. 銅鐸を用いた祭祀の習慣や青銅器文化 2. 磨製石器の製作技術と大規模な環濠集落 3. 寺院建築や彫刻などの高度な技術 4. 稲作の技術とそれに伴う青銅器の製造法
- 問11 埼玉県にある稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた金錯銘鉄剣が出土した一方で、熊本県にある江田船山古墳からも同様に大王の名が記された鉄刀が見つかっています。これらの発見から推測される、5世紀後半における大和政権の状況として最も適切なものはどれですか。
。（2017年 大阪府公立入試 類似）
1. 大和政権の本拠地が、近畿地方から関東地方へ移転した。 2. 朝鮮半島から伝わった鉄器の製造技術が、関東地方でのみ独占されていた。 3. 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。 4. 九州地方と関東地方の豪族が連合して、大和政権に対抗していた。
- 問12 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。
。（2019年 富山県公立入試 類似）
1. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため 2. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため 3. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため 4. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため
- 問13 5世紀に「倭の五王」が中国の南朝へ繰り返し使者を送り、朝貢を行った背景や目的についての説明として、最も適切なものを選択してください。
。（2024年 三重県公立入試 類似）
1. 冠位十二階や憲法十七条などの新しい制度を導入するため、先進的な政治体制を直接学ぶ官僚を派遣する必要があったため。 2. 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による日本侵攻を防ぐために、中国との友好関係を急いで構築する必要があったため。 3. 日本独自の元号を定めるにあたり、中国の皇帝から許可を得ることで、東アジアにおける地位を確立しようとしたため。 4. 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 大仙（大仙陵）古墳	堺市にあるこの古墳は、仁徳天皇の墓とも伝えられている日本最大の前方後円墳です。三重の堀に囲まれたその巨大な規模は、当時の大王（おおきみ）が持っていた強大な権力を物語っています。
問2	答え 2 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問3	答え 1 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。	遠く離れた埼玉と熊本 の両地域から同じ大王の名が記された遺物が出土したことは、5世紀後半までにヤマト政権の勢力（大王の権威）が関東から九州北部にまで拡大し、各地の豪族を服属させていたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問4	答え 3 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。
問5	答え 1 渡来人	大陸での争乱を避けるために日本に移り住んだ、あるいは大和政権に招かれた人々を指します。彼らは土木、養蚕、機織り、金属加工などの高度な技術のほか、漢字や仏教、儒教といった思想・文化をもたらし、日本が国家としての形を整える上で重要な役割を果たしました。
問6	答え 1 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。	土偶は縄文時代に作られたものであり、古墳時代のものではありません。古墳時代には、古墳の周囲に埴輪が立てられ、内部には副葬品として銅鏡や鉄剣などが納められました。
問7	答え 2 須恵器	古墳時代、朝鮮半島から移住した渡来人によって、穴窯（あながま）を用いた最新の作陶技術がもたらされました。従来の土師器（はじき）が野焼きで焼かれる赤褐色の土器であったのに対し、須恵器は1000度以上の高温で焼成されるため、実用性が高い硬質な土器として普及しました。
問8	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実、は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問9	答え 4 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県 の稲荷山古墳と熊本県 の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問10	答え 3 寺院建築や彫刻などの高度な技術	百済から仏教が伝来した際、単に宗教的な教え（経典）や崇拜対象（仏像）が届いただけでなく、それらを安置するための寺院を建てる建築技術や、仏像を造るための彫刻技術といった、当時の大陸や朝鮮半島の高度な技術がセットで導入されました。これにより、その後の日本の文化や技術は大きく発展することになりました。
問11	答え 3 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。	関東（埼玉県・稲荷山古墳）と九州（熊本県・江田船山古墳）という遠く離れた地域の双方から、大和政権の王であるワカタケル大王の名を記した遺物が見つかったことは、当時の政権の政治的影響力が日本列島の広範な地域に及んでいたことを証明する重要な歴史的事実です。
問12	答え 1 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問13	答え 4 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。	ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとしていました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百済が対立しており、その中での軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。